

東北土を考える会 研修会・総会を開催しました

2024年3月8日

東北土を考える会は、2月21日(水)、22日(木)の二日間、岩手県花巻市の「渡り温泉 ホテルさつき」にて研修会・総会を開催致しました。当日は、東北土を考える会会員と一般参加の生産者、農機メーカーの企業、事務局を含め、約70名が集まりました。

今回の研修会のテーマは「土壌と機械の観察力と判断力を磨く」。

秋田県立大学 名誉教授 金田 吉弘氏に2つの講演をしていただきました。

ひとつ目の「土の力」を活かす作物栽培では、近年の異常高温が、イネの生育の変化とコメの品質にもたらす影響やメカニズム、耕起方法の改善がもたらす効果と有機物の重要性、そして「現場力」として、作物の健康状態を見て判断する力、土壌状態を触って判断する力、気象が作物に及ぼす影響を予測する力の3つが大切と教えていただきました。

次に「土壌診断を活かした作物栽培」では、排水対策の重要性と、イネの生長に必要な要素、表土だけでなく、根が生える部分の土壌診断や、触ることでの土性確認など、様々な土壌についての観察の方法と判断の仕方をご講演頂きました。



金田 吉弘氏

続いて、清水 一孝会長の「アグリテクニカ2023視察報告」。2023年11月12日から7日間、ドイツのハノーヴァーで行われた甲子園球場の約22倍である86haの大規模展示会で、アグリテクニカの金賞、銀賞農機の紹介だけでなく、清水会長ならではの視点でみた世界最先端の農業機械の詳しい内容を写真と共に情報提供を頂きました。

その後、清水会長がファシリテーターとなり、事前に頂いたアンケート結果をもとに、「どういふ方法で収量をあげたのか」など、会場に來ている方々を巻き込みながら、活発な意見交換が行われました。

研修会後の情報交換会は大変盛り上がり、4次会に突入し深夜まで続きました。



清水 一孝会長

22日に行われた総会では、年会費の変更(個人・法人・賛助会員問わず一律10,000円)が決議されました。次に、土を考える会の新規入会者からコメントをいただきました。最後に、次回の研修会の意見交換をし、閉会となりました。



研修会の様子



総会の様子



新規入会者のあいさつ

